

病院PFIの改善にむけて

病院 PFI 実務—課題と展望—
＜スキームデザインを中心に＞金谷 隆正 (財)日本経済研究所
常務理事・調査局長

1. わが国病院 PFI 実務の展開

①注目集める病院 PFI

わが国 PFI 導入草創期より、病院の整備運営は事業規模が大きく、また民間の創意工夫を活用し得る運營業務も多数存在することから、PFI 導入の効果が見込まれる分野として注目を集めている。

②第1世代のチャレンジ

こうした中、高知医療センター及び近江八幡市民病院、さらには八尾市立病院において、わが国病院 PFI の先駆けとなる取組みがなされ、それぞれ PFI による事業の開始に至っている。これらいわゆる第1世代の病院 PFI は、先例のない中で、広範な運營業務を PFI 事業の対象とするなど前向きかつ貴重なチャレンジがなされたものと評価されよう。

③第2世代への展開

上記第1世代に続き登場した東京都「多摩広域基幹病院・小児総合医療センター」及び「がん・感染症医療センター」における PFI 事業では、広範な運營業務に関する民間 SPC の統括マネジメント能力の確保など、第1世代事業で明らかになった課題への対応に力点を置いた取組みが行われている。

④後続プロジェクトに向けて

現在、更に複数の病院 PFI 事業が進行中、計画検討中である。わが国病院 PFI 事業の一層の普及を推進していくためには、多様な後続プロジェクトにおいて、下記2にあげるこれまでの経験で明らかになった実務上のポイントに的確に対応していくことが重要である。

2. 病院 PFI における実務上の課題と対応

①SPC のマネジメント能力と役割の明確化

第1世代事業で明らかになった、SPC の統括マネジメント力不足の問題に鑑み、第2世代事業では、その確保に力点を置き、要求水準設定や事業者選定が実施され一定の成果を収めたが、一方でこれに対応し得る企業が限定されるため、競争の低下傾向が認められた。よって今後は、公共側が求めるマネジメント能力をより具体的に提示、SPC の役割と限界を明確化するとともに、かかる SPC の能力の発揮に対するインセンティブの導入を検討するなど、望ましい民間事業者の積極的参画を促す工夫が必要となる。

②成長と変化への柔軟な対応

医療制度、患者ニーズの変化、技術の革新等将来的に見込まれる病院をとり巻く業務環境の変化について、PFI 事業の長期契約の中で、いかに柔軟に対応しうるかも重要な課題である。第2世代事業では、協力企業の変更による業務体制見直しを可能とする等の工夫が導入されたが、今後更に、「開院時点や5年毎など業務内容の見直しとの内在化」など、より先進的なスキーム上の工夫を施すことが求められよう。

③応募者・発注者双方の負担感の軽減

病院 PFI では、業務が広範多岐にわたり、その専門性も高い点等から、発注者・応募者とも実務にかかる時間・費用の負担が重くなっている。これまで多段階選定審査の導入、提案・審査範囲の絞り込み等の対応を実施するも、それぞれ一長一短あるだけに、今後は公共・民間で適切な意思疎通を行い事業実施に向けたポイントを共有したうえで、事業スキームや提案を求める範囲を設定するなど地道な取組みが必要となる。

何れにしろ、多様な病院 PFI 事業を的確に推進していくためには、公共・民間の適切なコミュニケーションに基づき、当該事業に合った手づくりの事業スキームをデザインしていくことが重要である。